

<まとめ>

市区町村担当者と推進員の協働の重要性と 本研修の狙い

(内容)

1. 事業マネジメントの現状とあるべき展開方法
2. 本研修会の狙いとは

1. 事業マネジメントの現状とあるべき展開方法

現行計画の施策体系とその問題点

(現状把握が不十分／課題が抽象的／各施策を行うこと自体が目的化)

【目指す姿】 住み慣れた自宅や地域で、本人らしく暮らし続けられるまち

【基本目標①】

健康で自立した生活を送ることができる

【施策①】

健康づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策②】

介護予防の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策③】

地域づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策④】

認知症施策の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑤】

介護サービスの充実

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑥】

医療介護連携の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

国の手順と何が違うのか？

- 基本理念や目標は設定しているが、①理念・目標に関する現状分析(例:在宅生活が困難になった人はどれ位いるのかなど)、②要因分析(例:なぜ在宅生活が困難になったのかなど)が不十分である。
- 課題が抽象的なままで、具体化されていない。また、課題間の相互作用の確認、優先順位付けを行わないまま全ての課題に対応しようとしている。
- 「効果的な対策をどう打つか」よりも、国から示された各施策を「どのように展開するか」に意識が向いている。また、各施策がバラバラに検討されている(各施策を連動させて課題解決に結びつける発想になっていない)。

本来求められている事業展開の方法とは

－厚生労働省「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引きより」－

- 課題とは、「目指す姿」と「現状」のギャップのこと。マネジメントとは、様々な対策により、現状を目指す姿に近づけること（＝課題を解決すること）である。
- 様々な対策の中から、効果的な対策を選択するためには、現状を引き起こしている要因や原因をおさえる必要がある。これを「要因分析」という。これら分析を通じて、**より結果的な対策を関係者で検討・選択し、実行していく**ことになる。
- 課題解決に向けた一連の展開手順を示したものが「PDCAサイクル」で、①課題設定(Step1～3)、②効果的な対策の検討・実施(Step4～6)、③評価(Step7)から構成される。

マネジメントの構造とは

【Step1】目指す姿の設定
(目標・ゴール)

【Step7】効果確認
・対策によって、現状が目指す姿にどの程度近づいたかを確認するために、**何らかの指標を置いて確認する。**

【Step3】課題の選定
・両者のギャップから課題を抽出した上で、**課題の具体化と取り組むべき課題の選定を行う。**

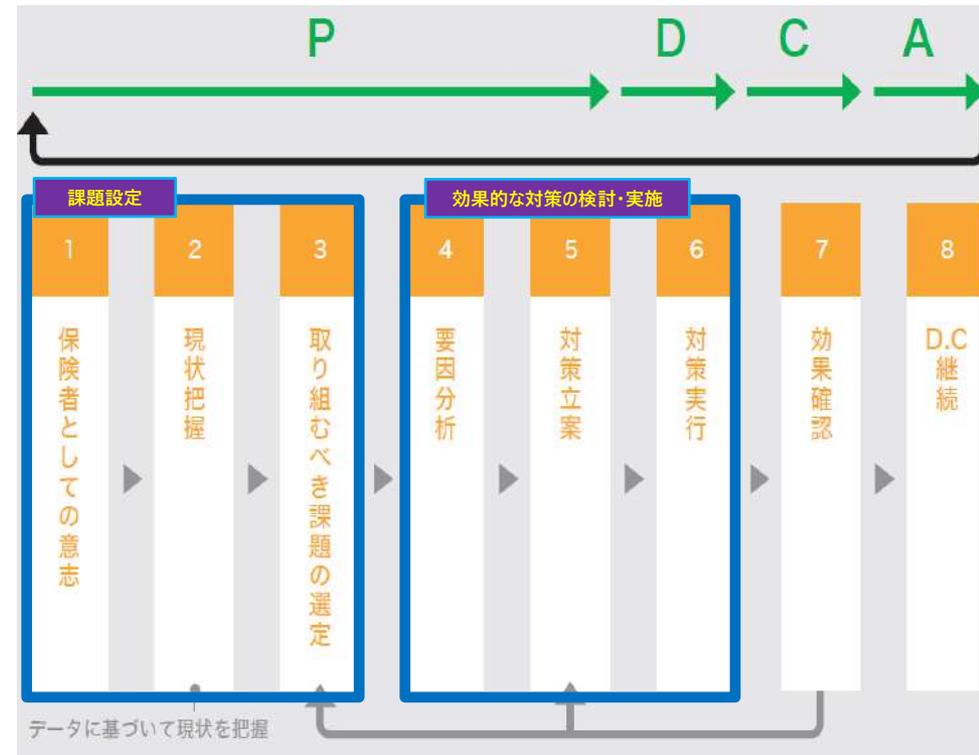
【Step4】要因分析
・効果的な対策を実行するために、現状を引き起こしている**要因の分析を、関係者と一緒に**行う。

対策 (= 取組) の実施

【Step5・6】対策立案・実行
・現状を目指す姿に近づけるために、**関係者で対策を検討・選択し、実行する。**

【Step2】現状把握

PDCAサイクルとは



出所) 厚生労働省老健局介護保険計画課：介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（2018.7.30）を一部改変

地域課題解決に必要な要素／展開プロセスと関係者の役割

－なぜ、認知症当事者の実態を知る人と施策を動かす人の協働が必要か？－

目指していること(ゴール)

- 認知症高齢者が、住み慣れた自宅や地域で、本人らしく暮らし続けられること。

ゴール達成に必要な要素と展開プロセス

I. 現状把握と地域で解決すべき課題の選定

- 【要素1】個々の認知症当事者が抱える課題(=個別課題)やニーズが把握できていること(推進員等)
- 【要素2】個別課題を俯瞰しながら、地域で解決すべき課題がイメージできていること(事業担当者)
- 【要素3】事業担当者と推進員等が情報交換・意見交換しながら、地域で解決すべき課題(テーマ)が抽出・選定されていること(事業担当者+推進員等)

II. 対策の検討・実行・進捗管理

- 【要素4】課題解決に向けた体制が検討されていること(事業担当者)
- 【要素5】検討会議にて、①目指す地域の姿、②現状、③解決すべき課題を共有した上で、課題解決に向けた対策が検討されていること(事業担当者、推進員も参加)
- 【要素6】進捗状況を確認し、対策の見直しを行うことができること(事業担当者+推進員等)

【地域課題解決に向けた事業の展開プロセス】



2. 本研修会の狙いとは

- ① 視点／考え方／仕事の仕方を変える
- ② あるべき展開方法を演習を通じて学ぶ
- ③ 立場を超えて協働することのメリットを感じる

< 狙い① > 視点／考え方／仕事の仕方を変える

今までの視点／考え方／仕事の仕方

あるべき視点／考え方／仕事の仕方

(市区町村担当者)

- ✓ ○○は委託先にやらせてもらおう！
→仕様書を書いて、委託できたら仕事が完了した気になる。

- ✓ 施策を考える行政と現場を知る専門職が、お互いの強みを生かして課題解決を図っていこう！

- ✓ 国から指示された各施策を、行政内部で検討しながら、計画・計画後の事業運営に反映させていこう！
→行政内部で素案を作って委員会にかけるとやり方のため、委員会でいろんな指摘を受けることになる。

- ✓ 現場で起こっていること(現状)、現場の人が感じている課題や効果がありそうな対策をヒアリングして、それを計画や事業運営に生かしていこう！
→現場の声を生かした計画や事業運営を行えば、計画策定も事業運営も楽かつ効果的になる。

- ✓ 国から指示された各施策を構築していこう！
→各施策(手段)の構築が目的になりがち。構築できたら、目的が達成されたので、そこで行動がストップする。

- ✓ 目指していること(ゴール、当面の目標)を意識しながら、そこに到達するためのシナリオを、現場を知る人と一緒に考えていこう！
→目的達成に向けて、各施策をどう組み立てていくかの視点になる。また、現場を知る人と協働することで、実現可能な対策が展開できることになる。

(認知症地域支援推進員／地域包括支援センター職員)

- ✓ 行政に、自分らの仕事を理解してもらいたい！
→相手を変えるという発想。一般的に、相手を変えることは難しい。

- ✓ 行政の仕事の仕方、視点(マクロ)、関心領域、強みと弱みを理解した上で、施策に使えるような情報を提供していこう！
→変えるべきは、相手ではなく自分のアプローチの仕方。

＜狙い②＞ あるべき展開方法を演習を通じて学ぶ

今までの展開方法における課題	演習のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事例から地域課題を出すよう言われているが、うまくいかない(演習1) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事例検討すると、課題として、①対象者に固有のもの、②他の認知症の人にも起こっているが、あるエリア特有のもの、③他の認知症の人にも起こっていて、市区町村全体で検討が必要なもの等に分かれる。演習では、課題の中から地域で解決しないとイケない課題を抽出し、対策まで考えてみるという内容にした。 →②の課題に対してはエリア会議で、③の課題に対しては市区町村主催の会議で検討するなどに分けて対応する手が考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国から示された各施策の構築方法に意識が向いている。また、構築後の活用イメージが弱い(演習2) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各施策の目的、即ち「何のために各施策を実施するのか」を考える内容にした。 ✓ また、認知症サポーターの養成を例に、養成した後の活用を意識させる内容を加えた。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域課題が抽出できない(演習3) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域課題を出す方法には、①個別事例から抽出する方法(演習1)、②現場を知っている人から挙げてもらう方法がある。今回演習3として、後者を実施した。 ✓ ただし、個別支援に慣れ親しんでいる人は、①地域課題を言語化すること、②優先順位をつけることが苦手な人が多い。 ✓ そこで、地域で起こっている「認知症当事者にとって不利益なこと」を挙げてもらった上で、その中で解決したいことを絞ってもらう内容にした。
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 施策1つ1つをどう構築するか意識が向いている。各施策の連動性が意識されていない(演習4) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目指していること(ゴール、当面の目標)を意識しながら、ゴール達成に必要な要素は何か→各要素をどう具体化するかを考えるという流れで、ゴールに到達するためのシナリオを、現場を知る人と一緒に考える内容にした。